

とも、内部自由度を有する工学システムに関して個々のシステムの特異性を生かした解析手法を確立すること、ネットワークの容量修正問題に関してさらに一般的な問題に対する算法を構成することなどにより、より多くの現実問題が本論文の手法に沿って解かれることが期待される。

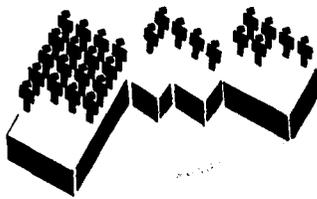
参 考 文 献

[1] S. Fujishige: Algorithms for Solving the Independent-Flow Problems. *Journal of the*

Operations Research Society of Japan, Vol.21 (1978), pp. 189-203

[2] M. Iri: Applications of Matroid Theory. In "Mathematical Programming, The State of the Art" (A. Bachem, M. Grötschel and B. Korte, eds.), Springer-Verlag, Berlin, 1983, pp. 158-201

[3] 杉原厚吉: 内部自由度をもった連立方程式における構造的な不整合とその検出法. 電子通信学会論文誌, Vol. J65-A (1982), pp. 911-918



会員近況

広島大学 経済学部 榎 康和

入会3年目をむかえましたが、ORに関してはときおり Fuzzy などを聞きかじる程度の周辺人とどまっています。現在、統計データの管理システムの開発に応用の立場から参加しています。

近年のデータベース技術の発展とともに、その管理下に置くことが要請されるデータの種別は、単なる数値から文献・画像・知識等へと多様になってきました。またその範囲についても、組織の日常的管理活動におけるものから意思決定に直接に関連するものに拡大しております。これらの情報の管理には、従来のデータベース管理システムとは発想を異にする必要があります。なかでもさまざまな社会調査の結果や実験結果、また各種の統計資料を対象とするシステムは、そのモデル化および解析のシステムとともに、OR活動を背後から支える役割を果たすものと思われます。これまで、主として時系列経済資料を扱ってきましたが、今後は地域の各種統計資料を対象として、システムの基礎となるデータ・モデルやそれを記述する DD/D (データ辞書) の問題を考えてゆきたいと思っています。

(株)インテック 技術本部 北野 孝一

コンピュータの時代とよばれていても、コンピュータの常識は、一般の人の非常識である。パソコン、マイコンのマニュアルは、メーカーの担当者が書くため、非常にわかりにくく、すこぶる評判が悪い。これは日本に限ったことではないらしい。

最近英国の出版社で素人の青少年にマニュアルを書かせて成功したという話が新聞に載っていた。これはたいへん大切なことを示唆しているように思う。今までのマニュアルには、なぜか一番大切なことが抜けていたのではないだろうか。コンピュータにとって常識的なことは書かれていないのである。

といって、マニュアルは細かく詳しく書いてあれば良いというものでもない。何も知らない者がマニュアルだけでマスターできるわけではないし、逆に良く知っている人にはマニュアルは不要なのである。どうせ書くのなら「大切なことだけを書く」ことだ、ただし、その対象としている人にわかるようにだ。それを「必要な時に役に立つように書く」ことである。わからないことがどこに書いてあるか探せる人には、マニュアルはいらない。これらは「使う側に立って書く」ことであると言って良いと思う。

情報処理に関係している者にとって、コミュニケーションの大切さは、わかっているつもりでも、実際やっていることは逆行していることが意外と身のまわりには多いものである。

●ご利用ください●さしあげます●

下記の雑誌は、交換等によって、日本OR学会にはほぼ定期的に送られてきているものです。学会事務局で保管しておりますので、どうぞご利用ください。下記のもの以外にも大学の論叢等があります。なお、1982年中に発行のものは、ご希望があれば、さしあげますので(原則として郵送はいたしません)事務局までお申し出ください。(会員の方を優先とさせていただきます。)

- | | |
|---------------|---------------|
| (1) I E | (9) テレトピア |
| (2) 運輸と経済 | (10) 電子通信学会誌 |
| (3) ENGINEERS | (11) 土木学会誌 |
| (4) 技術と経済 | (12) 日本機械学会誌 |
| (5) 計測と制御 | (13) 標準化ジャーナル |
| (6) 高速道路と自動車 | (14) 標準化と品質管理 |
| (7) 産業能率 | (15) 理論経済学 |
| (8) 数理科学 | |